

令和2年神奈川県
国家戦略特別区域限定保育士試験問題

保 育 の 心 理 学

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB～B) で、濃くはっきりとマークすること。
正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

(良い例) …  (濃くマークすること。はみだしは厳禁。)

(悪い例) … 

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の文は、アタッチメント行動に関する記述である。(A) ~ (C) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

乳児が不安や恐れを抱いたときに示す、アタッチメント対象との近接を確保するための行動をアタッチメント行動といい、その行動は3つのカテゴリーに分けられる。

(A) はアタッチメント対象を他の人と区別してその人物に常に視線を向け、凝視するような行動である。(B) は泣き声、発声あるいは微笑反応などで、アタッチメント対象を自分の方に引き寄せようとする行動である。(C) はアタッチメント対象に対する後追い行動やしがみつきの行動である。

【語群】

ア 定位行動	イ 同調行動	ウ 調整行動	エ 信号行動	オ 接近行動
カ 攻撃行動				

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | オ |
| 2 | ア | エ | オ |
| 3 | イ | ウ | カ |
| 4 | イ | エ | オ |
| 5 | イ | エ | カ |

問2 次のうち、約1歳以降に初めて見られる自己の発達に関する記述として正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 自分の名前を言われると「はい」と返事する
- B 鏡に映る自分の顔を見ながら自分の鼻を指さす
- C 自分の手を見つめる
- D 鏡に映る自分の顔を見て笑いかける

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問3 次の文は、子どもの描画の発達に関する記述である。A～Cを発達の順に並べた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 直線を見て真似て描く
- B 四角を見て真似て描く
- C ぐるぐるとなぐり描きをする

(組み合わせ)

- 1 A→B→C
- 2 A→C→B
- 3 B→A→C
- 4 C→A→B
- 5 C→B→A

問4 次の文は、認知発達に関する記述である。(A) ~ (D) にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- 心のはたらきや性質を理解する認知的枠組みを (A) という。また、(A) の発達を調べる課題の一つに (B) がある。
- 前操作期には、物の状態が変化してもそのものの本質は不変であるという (C) は成立していない。
- 自分の心の状態や認知について、^{ふかん}俯瞰的に認識することを (D) という。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	心の理論	誤信念課題	保存の概念	メタ認知
2	心の理論	マシュマロテスト	保存の概念	リハーサル
3	心の理論	誤信念課題	自己中心性	メタ認知
4	社会的参照	マシュマロテスト	自己中心性	リハーサル
5	社会的参照	マシュマロテスト	保存の概念	メタ認知

問5 次の文は、「保育所保育指針」第1章「総則」に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち「協同性」に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 友だちと様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがわかる。
- B 友だちと関わる中で、互いの思いや考えなどを共有する。
- C 友だちと一緒に協力し、充実感をもってやり遂げようとする。
- D 友だちと一緒に共通の目的の実現に向けて、考えたり工夫したりする。
- E 友だちと心を通わせる中で、豊かな言葉や表現を身につける。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	×
2	○	○	×	○	×
3	×	○	○	○	×
4	×	○	×	○	○
5	×	×	×	○	○

問6 次の文は、ピアジェ (Piaget, J.) の認知発達理論に関する記述である。【I群】の用語と【II群】の記述を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A 具体的操作期
- B 形式的操作期
- C 他律的道德性
- D 自律的道德性

【II群】

- ア 規則は永続的なものではなく、相互の同意があれば変えられるものであると考える。
- イ 規則は絶対的なものであり、変えられないと考える。
- ウ 見かけに左右されずに、具体的な対象については論理的な思考ができるようになる。
- エ 抽象的な概念や命題について論理的に思考することができる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ウ | イ | エ | ア |
| 2 | ウ | エ | ア | イ |
| 3 | ウ | エ | イ | ア |
| 4 | エ | ウ | ア | イ |
| 5 | エ | ウ | イ | ア |

問7 次の文は、コミュニケーションの発達に関する記述である。【I群】の記述と【II群】の用語を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A 大人が対象を指さし、その行動を見て子どももまた共通の対象に注意を向ける。
- B ものには名前があるということを理解する時期に、単語の量が増大する。
- C 「こわいけどがんばろう」など、子どもが自分に言い聞かせて行動を調整する際に、音声を伴わずに、心の中で思考する手段として言語を使う。
- D 不特定の人との時間を越えたコミュニケーションを習得する。書き言葉が重要な役割を果たす。

【II群】

- ア 外言
- イ 語彙爆発
- ウ 内言
- エ 二次的言葉
- オ 共同注意

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | エ | イ | ア | オ |
| 2 | エ | オ | ア | イ |
| 3 | オ | イ | ア | エ |
| 4 | オ | イ | ウ | エ |
| 5 | オ | エ | ウ | イ |

問8 次の【Ⅰ群】の用語と【Ⅱ群】の記述を結びつけた場合、記述がないものを【Ⅰ群】から一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A 外発的動機づけ
- B 内発的動機づけ
- C アンダーマイニング現象
- D 原因帰属
- E 学習性無力感

【Ⅱ群】

- ア 絵を描くことに興味をもって熱中していたときにご褒美をあげると、本来のやる気が阻害される。
- イ 本を読むこと自体が楽しくて読書をする。
- ウ 「お片づけをしなかったら、おやつはなしですよ」と言って片づけに取り組みさせる。
- エ 失敗したことを自分の能力がないためだと認知する。

(記述がないもの)

- 1 A
- 2 B
- 3 C
- 4 D
- 5 E

問9 次の【表】は、「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」（平成30年度 文部科学省）の小・中学校の長期欠席（不登校等）に関する項目のうち、不登校の要因について示したものである。以下の【設問】に答えなさい。

【表】不登校の要因

要因	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
	いじめ	友人関係をめぐる問題 いじめを除く	教職員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	部活動等への不適応 クラブ活動、	学校のきまり等をめぐる問題	入学、転編入学、 進級時の不適応		
小学校	359 人	9,740 人	2,009 人	6,795 人	495 人	102 人	1,145 人	2,026 人	24,901 人	6,165 人
	0.8%	21.7%	4.5%	15.2%	1.1%	0.2%	2.6%	4.5%	55.5%	13.7%
中学校	678 人	35,995 人	3,028 人	28,687 人	6,395 人	3,173 人	4,043 人	9,207 人	37,040 人	16,041 人
	0.6%	30.1%	2.5%	24.0%	5.3%	2.7%	3.4%	7.7%	30.9%	13.4%

【設問】

次の文のうち、【表】の説明として（ A ）～（ E ）の記述が適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

不登校の要因として小学校、中学校ともに最も多いのは、（A 「家庭に係る状況」）である。そして、学校に係る状況の中では、（B 「いじめ」）が最も多い。

小学校と中学校で割合を比較すると、小学校より中学校で多いのは（C 「学業の不振」）や（D 「クラブ活動、部活動等への不適応」）であり、これらの要因は、（E 「いじめを除く友人関係をめぐる問題」）よりも多い。

（組み合わせ）

- | | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × | × |
| 5 | × | × | × | ○ | × |

問 10 次のうち、高齢期に関する用語として適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 世代性
- B 統合対絶望
- C サクセスフルエイジング
- D フレイル
- E モラトリアム

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	×
2	○	×	○	×	○
3	×	○	○	○	×
4	×	○	×	×	○
5	×	×	×	○	×

問 11 次の文は、家族システム論に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

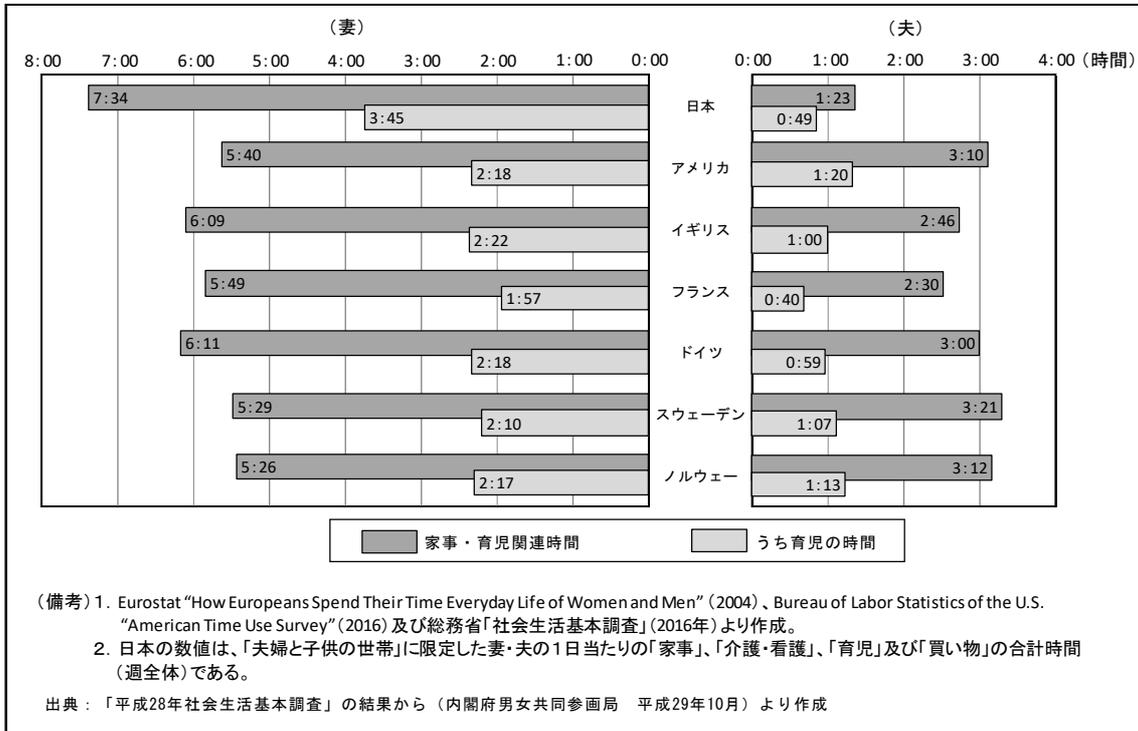
- A システムには階層性があり、互いに影響を与えあう。
- B 家族システムを重視する心理的療法であるシステム論的家族療法では、家族をひとまとまりの統合体として機能する組織として理解する。
- C 家族成員に変化が起きると、家族全体に変化をもたらす。
- D 境界は、家族メンバーの機能、システム内の関係、接触の種類や量を規定する概念であるが、世代間で境界が曖昧であると、子どもに問題行動が見られる場合がある。
- E 子どもが不登校になったとき、子どもに原因を求めるような考え方を円環的因果律という。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	×
3	○	×	○	×	×
4	×	○	×	○	×
5	×	×	×	○	○

問 12 次の【図】は、「6歳未満の子どもをもつ夫婦の家事・育児関連時間（1日当たり・国際比較）」である。以下の【設問】に答えなさい。

【図】



【設問】

次のうち、【図】に関連する語句として不適切なものを一つ選びなさい。

- 1 ワーキングメモリ
- 2 ワンオペレーション育児
- 3 ワーク・ライフ・バランス
- 4 性別役割分業
- 5 男女共同参画社会

問 13 次の文は、ADHD（注意欠如・多動性障害）に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 文部科学省は、「ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。」と定義している。
- 2 不注意や衝動性から失敗を繰り返したり、叱責される経験が多くなることによる自己肯定感の低下を防ぐ関わりが必要である。
- 3 落ち着いてじっとしていることが難しい一方で、自分の興味のあることには驚くほどの集中力をみせることがある。
- 4 集団活動中に外からの刺激（窓の外から聞こえる音など）があると、それが気になり、元の活動に集中することが難しいため、刺激が多すぎる環境を改善することが、支援の一つにあげられる。
- 5 『DSM-5』による診断基準では、不注意または多動性－衝動性の症状のうちいくつかは保育所のみで存在していても、ADHDと診断される。

問 14 次の文は、『DSM-5』におけるチック症群／チック障害群に関する記述である。
不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 チックとは、突発的、急速、反復性、非律動性の運動または発声である。
- 2 チックの頻度は増減することがある。
- 3 『DSM-5』におけるチック症群／チック障害群は、神経発達症群／神経発達障害群に分類される。
- 4 発症は18歳以前である。
- 5 最初にチックが始まってから3か月以上持続した時点で、トゥレット症／トゥレット障害と診断される。

問 15 次の文は、共感的理解に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 子ども理解の主な方法として、共感的理解と客観的理解があげられる。
- B 共感的理解を重要視した心理学者の一人として、来談者中心療法を提唱したロジャーズ (Rogers, C.R.) があげられる。
- C 共感的理解を表現する技術として、視線を合わせて話を聞く方法がある。また、相手の顔の中心部分を見ることで、相手と視線を合わせることとほぼ同様の効果が得られる。
- D 共感的理解を表現する技術として、効果的な質問をする方法がある。相手がうなずいたり首を横に振ったりするだけで答えることができる質問の仕方をオープンクエスチョンという。
- E 共感的理解を表現する技術として、相手が表現した気持ちを言葉で相手に伝え返す方法がある。これを感情の反動という。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × | × |
| 5 | × | × | × | ○ | ○ |

問 16 次の文は、子どものいざこざや葛藤に関する記述である。A～Dを発達の順に並べた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 自分で自分のことをしようとする意欲が高まり、大人に対して「自分で」「嫌だ」という自己主張や反抗をする。
- B 集団での生活や活動が充実し、けんかやいざこざも自分たちで解決しようとする。
- C 難しい課題に挑戦するときに、他者から見られる自分を意識して、「できないかもしれない」と泣き出したり、急にふざけたりすることがある。
- D 子ども同士で思いがぶつかったときに「かみつき」が出やすい。

(組み合わせ)

- 1 A→D→B→C
- 2 A→D→C→B
- 3 D→A→C→B
- 4 D→B→A→C
- 5 D→C→A→B

問 17 次の文は、「保育所保育指針」第1章「総則」の2「養護に関する基本的事項」の(2)「養護に関わるねらい及び内容」の一部である。(A)～(C)にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

一人一人の子どもの気持ちを(A)し、(B)しながら、子どもとの継続的な(C)を築いていく。

【語群】

ア 理解	イ 受容	ウ 共感	エ 尊重	オ 信頼関係	カ 協力関係
------	------	------	------	--------	--------

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | オ |
| 2 | ア | エ | オ |
| 3 | イ | ウ | オ |
| 4 | イ | ウ | カ |
| 5 | イ | エ | カ |

問 18 次の文は、保育所と小学校との連携と接続に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 小学校教育が円滑に行われるよう、保育士と小学校教師との意見交換の機会を設け、連携を図ることが望ましい。
- 2 小学校で実施するスタートカリキュラムとは、小学校に入学した新入児童の適応を促すカリキュラムである。
- 3 スタートカリキュラムは、子どもたちが幼児期に体験してきた「遊び」の要素を多く含んだ内容である。
- 4 小学校に入学したときから授業時間は 45 分で固定されているため、保育所にいるときから 45 分間座ってられるようにすることが望ましい。
- 5 小学校学習指導要領には、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することが明記されている。

問 19 次の文は、『DSM-5』におけるDCD（発達性協調運動症／発達性協調運動障害）に関する記述である。（A）～（D）の語句が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

協調運動技能の獲得や遂行が、その人の生活年齢や技能の学習および使用の機会に応じて期待されるものよりも明らかに劣っている。その困難さは、（A 不器用）（例：物を落とす、または物にぶつかる）、（B 運動技能）（例：物をつかむ、はさみや刃物を使う、書字、自転車に乗る、スポーツに参加する）の遂行における（C 遅さ）と不正確さによって明らかになる。

（中略）

この症状の始まりは（D 発達段階早期）である。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	○	×
3	○	×	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

問 20 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

話をするとき「…あ、あ、あの、あのね、…」と、ことばの始めが出にくく、音を繰り返したりつまったりすることが目立つ5歳の男児がいます。

【設問】

この子どもに疑われる精神医学的問題について、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 保育所や学校といった特定の社会的状況において話すことが一貫してできない。
- B 二人以上で同時にセリフを言う時や、歌う時には症状が目立たない。
- C 成長とともに症状が消失する場合もある。
- D 養育者は落ち着いてゆっくり話すように伝えることが効果的である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○